

短期集中型少人数教育における moodle の利用

熊本大学大学院 正会員 小林一郎 熊本大学 ○学生会員 杉原浩実
熊本大学大学院 非会員 喜多敏博

1. はじめに

大学のカリキュラムに創造性を重視した教育が取り入れられて久しい。本校でも、「創造的な知性」¹⁾の育成に対応する科目として、基礎セミナーを導入している。これは、大学教育へのオリエンテーション科目として、全新生を対象とする必修科目に位置づけられる。少人数のゼミ形式の授業を通して、1) 自主的・自律的学習能力、2) 論理的思考方法や科学的思考方法及び適切な自己表現力、3) 他者とのコミュニケーション能力の三つの資質の育成を目的としている。そのため、グループワーク、討論や発表による非定形な成果を出すことが必須とされる。これまで、基礎セミナーは教師が担当する授業 15 回で構成されていた。しかし、大学生活の仕方や図書館利用法を学ぶ時間などと統合され、2011 年度から授業時間が減少した。この背景には、教師の負担軽減などがある。

著者らは、少人数教育にウェブを用いた学習管理システムを組み合わせることで、短期間でも一定の成果をあげる授業を実施した。本論文では、その報告を述べる。

2. 風景の発見の概要

著者の一人（小林）は基礎セミナーの「風景の発見」を担当している。この科目は、「風景」をもう一度見直すことで、1) 自分の考えを簡潔に文章にまとめる力、2) 口頭発表を通し、自分の考えを述べる力、3) 風景観察を通し、自分の周辺を観察・分析する力を養うことを目標とする。風景の発見は、2002 年に始まり、2009 年には学生アンケートで高評価を得た。よって、2010 年には FD 教育の一環で 3 名の教官が授業見学に来了。

受講生は 14 名で文系の生徒を対象にしている。表-1 は 2011 年度の授業日程である。全 8 回の授業に加え、毎回の授業後に、授業の重要 3 項目と感想の提出がある。また、それとは別に全 3 回の課題提出、課題の発表会をした。課題は橋梁や街角をテーマにした写真であり、最終成果物には撮影した写真を含めた手書きのレポートを課した。最後の授業から、レポート提出まではおよそ一ヶ月の時間をあけ、その時間は自分で調べたり、考える

時間とした。質問などは、随時受け付けた。授業時間は減ったが、全 8 回で最終成果物を前年度と同じレベルまで持っていくために、授業時間外の自習で足りない部分を補う必要があった。

表-1 講義日程

	日程	講義内容
第1回	2011/4/14	ガイダンス：読書と旅の価値
第2回	4/21	特異点探索(現場の見方)
第3回	4/28	楽しい道の現地探索と写真撮影
第4回	5/12	道の調査結果の発表
第5回	5/19	本の感想文についての討論
第6回	6/2	美しい橋の現地調査と写真撮影
第7回	6/9	橋の調査結果の報告
レポート作成期間		
第8回	7/15	最終レポート 結果発表

3. ウェブによる学習管理

ウェブを用いた学習管理システム（Learning Management System:以下、LMS）のひとつに moodle²⁾ がある。LMS は遠隔地でもインターネット環境があれば、何人でも利用できる。moodle はオープンソースの LMS として 2000 年頃から使用が開始された。フリーライセンスなので低コストで導入できるうえに、機能が多い。カスタマイズも比較的容易にできるため世界中で使われ、現在も開発が続いている。本校でも 2009 年から全学で運用を開始し「風景の発見」でも導入した。しかし、他に積極的に授業に取り入れている事例は少ない。LMS は多くの機能をもっているため、慣れれば便利であるが、教師はその使い方を自主的に勉強する必要がある。よって、主に資料配布や伝言板として使われているのが現状である。

4. 風景の発見における moodle の利用

風景の発見では、授業で重要だと思ったポイントを 3 点記入する重要三項目、感想、また、写真や本の感想文などの提出物は moodle で電子投稿させた。14 人の生徒に対し、昨年度に受講した生徒なども含めた教師側は 5 人で対応した。

図-1 は、掲示板で生徒に感想を投稿させたものだが、教師が適切なコメントを返しており、さらに生徒も、それに返信している。このように議論がうまれることで、講義内容の理解がより深まる。また、図-2 は、提出された写真を一覧表示したものである。生徒は、他の生徒が提出した写真を見ることができるので、場所が被ることがなく、カメラのアングルや撮影時間にも生徒なりの工夫がみられる。自主的に写真を撮り直しに行く生徒もいた。



図-1 感想提出

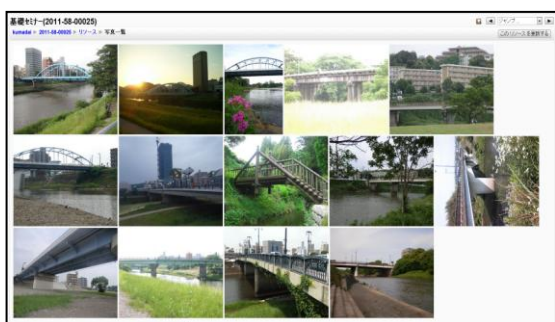


図-2 写真提出

5. 最終レポートの分析

風景の発見では、授業のまとめとして手作りの最終レポートを提出し、発表会で優れたレポートを選んでいる。課題で提出してきた橋の写真の考察や、授業の感想を書き、形式は自由である。図-3 は 2010 年度の最終レポートで、図-4 は 2011 年度のものであるが、どれも生徒の創意工夫がみられる。

授業が全 15 回あった 2010 年度までのレポートは、授業全体の感想、写真を撮る上で苦労したことや、授業の重要な点を踏まえた考察が述べてあり、レイアウトなどにも工夫が見られる。一方、授業時間が削減された 2011 年度は、そういったものだけでなく、授業のこの部分がより印象的である、さらに自分はこう考えるという所まで踏み込めているものが多くあった。2010 年度までのレポートに比べて、2011 年度も遜色ないものであった。

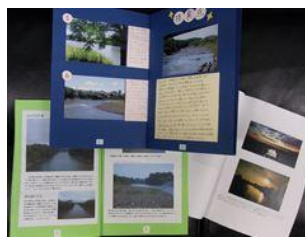


図-3 2010 年度の作品



図-4 2011 年度の作品

6. 考察

これまでに述べたような、自主性や創造性がうまれた一因に、生徒や教師間の相互触発が考えられる。旧来の授業形態では、教師から生徒へ一方に知識を享受するものであった。しかし、風景の発見は発表や議論が中心であり、写真や課題を中心に教師と生徒の間で多方向のつながりがうまれる。これが成果を導いたといえる。

授業の意義は「場」を提供することでもある。その「場」として moodle を用いる価値は大きい。moodle を用いることは履歴が残ることであり、履歴が残ることでメンバーは情報を共有することができる。さらに、時間を置いて投稿することもできるため、他の生徒の意見を参考に自分の意見を考え直すことができる。これらは、授業の深い理解につながる。この深い理解が、最終レポートの結果として表れてくる。よって、moodle を用いた 2011 年度はより深い感想が見られたと考える。これより、対面の授業のみではなく、LMS による情報の共有を組み合わせることで、よりよい効果がうまれるということがわかった。

しかし、LMS を用いることで、授業時間や場所の変更がうまく伝わらない、課題提出の締切を守らない生徒がいるなどの問題もあった。加えて、moodle のインターフェースにもまだ改善の余地がある。次年度は、そのような点を改善し、更に質の高い授業をめざす。

<参考文献>

- 1) 熊本大学ティーチングオンライン：
<http://kuto.kumamoto-u.ac.jp/index.php>
- 2) 林良雄，姫野完治，上田晴彦，成田堅悦：Moodle による e-ラーニングシステムの構築と運用について，秋田大学教育文化学部研究紀要 自然科学，vol.61，pp.51-58，2006.3